

アメリカの公共図書館のひとつのイメージ

— コミュニティに寄り添う図書館 —

山 本 順 一

本稿は、2014年10月18日（土）、京都大学文学部新館第1講義室において、日本図書館研究会と上海市図書館学会が共催した第10回国際図書館学セミナーの場で発表した内容をもとに、原稿化した。内容については、2013年9月から2014年8月までの1年間、勤務先の桃山学院大学から海外研修の機会を与えられ、visiting scholarとして、アリゾナ大学の専門職大学院、情報資源図書館学研究科（School of Information & Library Science）での研究成果の一部を取りまとめたものである。

はじめに

図書館が潜在的利用者を含む利用者に対して、提供するサービスとサービスを提供するための前提となる図書館内での作業を‘図書館サービス’（library services）という。図書館情報資料の閲覧、視聴、貸出、情報へのアクセス、図書館で実施される講座やイベントなど、前者の直接（潜在的）利用者に向けられ、それを通じて利用者が図書館を身近に感じ、肯定的ないしは否定的評価の対象とするサービスを‘パブリック・サービス’（public services）と観念する。後者の資料選択や導入データベースの選択および契約・受入れ、分類目録作業（大方はコピーカタログングとなっている）、図書館資料の装備・配架、各種の図書館プログラムの企画、図書館ポータル設計など利用者が享受するパブリック・サービスを支えるバックヤードの前

キーワード：公共図書館、ピマ・カウンティ・パブリック・ライブラリー、
図書館の民営化、地域振興支援、エンベデッド・ライブラリアン

提作業を総称して‘テクニカル・サービス’ (technical services) ないしは‘テクニカル・プロセス’ (technical process) と呼ぶ。利用者に図書館の存在意義を肯定的に評価してもらい、提供するパブリック・サービスに十分満足してもらうためには、利用者からは直接的には眼に見えないテクニカル・サービスに注力する必要がある。

本稿では、利用者市民に高く評価され、コミュニティになくなくてはならない公共図書館にとって、テクニカル・サービスの重要性は認識しつつも、パブリック・サービス展開の哲学について、幾ばくかの考察を加えることにしたい。

1 最近の日本の公共図書館の動き

わたしは行ったことがないが、佐賀県武雄市立ツタヤ図書館が大いに話題になっているようである（本稿の草稿はアリゾナ滞在中にまとめたもので、日本国内の情報にはほとんど疎い状況にあった）。図書館のなかの一等地にスターバックスが営業をしているのだそうである。

ネットサーフィンをすると、東京・渋谷区の代官山の蔦屋書店に惚れこんで市立図書館を託した方は、こんなことを言われている。「自分で飯が食えて、魅力的な大人をつくりたい。へこんでも倒れない、そういう大人をつくりたい。正解を求める人ではなく、正解をつくっていく人たちを育てたい」と。まったくその通りだと思う。世界中の公共図書館の究極の目的はたしかにここにあると思い、この言葉には熱烈な賛意を伝えたい。そのような自立した反発力のある人たちを育てるのに役立つべき図書館の目的は、「教養や情報の共有」を進めることと、「気持ちの良い空間」を提供することにあるとされている。また、この図書館を真似しようとする後追い図書館が計画されたりしているようであるが、図書館に直接的な‘にぎわい機能’を期待するのには違和感を覚える。そして、「図書館は無料の貸本屋ではありません」とおっしゃる。気持ちがよいくらい、見事に間違っている。図書館と図書館行政については、ズブの素人であることを白状している。公共図書館は、間違いなく‘無料貸本屋’である。‘無料貸本屋’でなければ、その使命は果

たせない。たまたま運悪く家庭が崩壊し（崩壊していなくてもいいが）、‘みなしごハッチ’のように天涯孤独のピンボーニンが（別にひとりぼっちでなくてもかまわないが）、どうでもいい、役に立たないフィクション、小説に限らず、無料でクソ難しい本が落ち着いた雰囲気の中で、あるいは借り出して自由に読めるところに、公共図書館の存在意義がある。潜在的能力と自助努力を前提に、機会均等の人間的成長を促すところが図書館で、利用者は図書館行政の単なる客体、消費者のお客様ではなく、利用者が主体的にみずからを振り返り、自分を変えてゆくのを支援するのが公共図書館で、‘コミュニティのアンカー’（community anchor）としての役割をになう大きな意味をもつ公共的機関である。

（帰国後、張本人が書かれたベストセラー¹⁾を手にすることができたので、稿末の補論のところで、今一度とりあげることにしたい。）

2 アメリカ図書館協会の「図書館を利用する権利に関する宣言」

アメリカ図書館協会の2013-2014年度の会長を務めるバーバラ・ストリップリング（Barbara Stripling）は、先頭に立って‘図書館が市民の生活、人生を変える’と唱え、その信念が表現された文書が「図書館利用に関する宣言」(The Declaration for the Right to Libraries)²⁾である。この文書は、公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館のすべての館種の図書館を利用するアメリカ人の権利に関して、市民の意思の確認を企図し、この文書への賛成の署名を得ることによって図書館に対する持続的な支持の存在をあきらかなものにしようとしている。図書館の現代的意義を確認する文書だと確信しているので、以下に訳出したものを掲げておきたい。

1) 樋渡啓祐『沸騰！図書館』（角川oneテーマ21）、2014。

2) <http://www.ala.org/advocacy/declaration-right-libraries-text-only>

図書館を利用する権利に関する宣言

Declaration for the Right to Libraries

図書館が生活を変える

LIBRARIES CHANGE LIVES

アメリカ合衆国独立宣言および世界人権宣言の精神にかんがみ、図書館は民主主義社会にとって必須不可欠のものであるとの信念をわたしたちは抱いている。毎日、わが国および世界中の数えきれないほど多くのコミュニティにおいて、数百万にのぼる子どもたち、児童生徒学生および成人たちが、学習し、成長し、それぞれの夢を達成するために、図書館を利用している。たくさんのずらっと並んだ図書、コンピュータその他の資源に加えて、図書館の利用者は、ライブラリアンや図書館職員の専門的な教育や指導を得て、知識を広げ新しい世界に眼を開くことができる。わたしたちは、公共図書館、学校図書館、大学図書館、および専門図書館を含む優れた図書館を利用するわたしたちの権利を宣言し、確認するとともに、あなたがたに対してこの図書館を利用する権利に関する宣言について賛成の署名をし、図書館への支持を示すようお願いしたい。

図書館は個々人に力を与える。学校でうまくやってくスキルを身につけたり、仕事を探したり、可能性のある職業を調べたり、赤ん坊を育てたり、また引退後の生活を考えたり、あらゆる年齢のひとがよりよい生活に導く手助けをしてもらえらると思ひ、関係する知識、支援、およびコンピュータやその他の資源へのアクセスを求めて図書館にやってくる。

図書館はリテラシーの向上と生涯学習を支援する。多くの子どもた

ちや成人たちは、学校や公共図書館で、お話の時間、研究課題、夏休みの読書、個別指導やその他の機会を通じて、読書をするようになる。その他の者たちは、図書館にやってきて、彼らの疑問の解決や新しい興味の対象の発見、そしてほかの人たちとの考えの共有に役立つ技術や情報スキルを学び取る。

図書館は家族のつながりを強化する。(図書館に対して、) 家族はともに学習し、成長し、戯れるのに役立つ、快適で居心地がよい空間と豊富な資源を見出す。

図書館は偉大な平衡装置である。図書館は、あらゆる年齢層、あらゆる学歴、所得水準、民族、身体的能力を問わず、すべての人びとにサービスを提供する。多くの人たちに対して、図書館がなければ得ることができない、生活し、学び、働き、自律するために人々が必要とする諸資源を図書館は提供している。

図書館はコミュニティを育成する。図書館は、利用者と直接向き合ったり、オンラインを通じて、お互いに対話し、ともに学び、助け合っている。図書館は、特別なニーズをもつ高齢者、移民の人たちやその他の人びとのために、支援を提供している。

図書館は、わたしたちの知る権利を守っている。読書をし、情報を求め、そして自由に話すことができる、わたしたちの権利は、当然のものとして保障されなければならない。図書館とライブラリアンは、連邦憲法修正第1条によって保障されている、このもっとも基本的な自由を積極的に擁護する。

図書館は、わたしたちのこの国を強化する。わたしたちの国の経済

的な健全さと統治の成功は、リテラシーと十分な情報と知識を備えた国民に依存している。学校図書館、公共図書館、大学図書館は、この基本的な原理を支えている。

図書館は、研究開発と学術を推進する。知識は、知識をもとにして育つ。学校の宿題を片付けたり、癌の治療法を探究したり、学位の取得を目指したり、またさらに燃費効率の良いエンジンを開発したりするにも、あらゆる年齢層に属する学習者や研究者たちは、図書館とライブラリアンが提供する知識と専門的技術に依存している。

図書館は、わたしたちがお互いをよりよく理解するのを助けている。それぞれみんなが様々な人生行路を歩んできた人びとが図書館にやってきて、共通の関心事をともに議論する。図書館は、わたしたちの様々な異なった経験を共有し、それからいろいろなことを学び取るのを支援するべく、各種のプログラムやコレクション、そして集会室を提供する。

図書館は、わたしたち国民の文化遺産を保存する。過去を知ることには、わたしたちの未来を開くカギとなる。過去、現在および未来をわたしたちがより良く理解認識できるのに役立つ、オリジナルのユニークな歴史的な文書を、図書館は収集し、デジタル化し、保存する。

3 個々人に寄り添う図書館

うえに紹介した「図書館を利用する権利に関する宣言」の前文が終わり、本文に入ったところに、「図書館は個々人に力を与える。学校でうまくやってゆくスキルを身に着けたり、仕事を探したり、可能性のある職業を調べたり、赤ん坊を育てたり、また引退後の生活を考えたり、あらゆる年齢の人びとがよりよい生活に導く手助けをしてもらえると思い、関係する知識、支

援、およびコンピュータやその他の資源へのアクセスを求めて図書館にやってくる」とある。

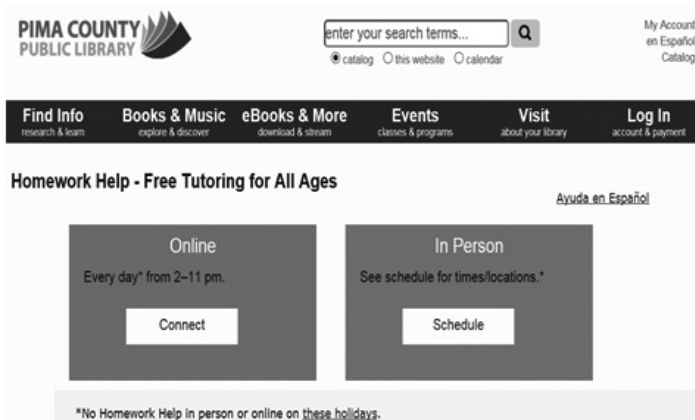
下に掲げた、わたしが2013年9月から翌2014年8月まで研修で滞在したアリゾナ州のトゥーソンにあるピマ・カウンティ・パブリック・ライブラリーのホームページを見てほしい。



図1 ピマ・カウンティ・パブリック・ライブラリーのホームページ1

このトップページにあげられている館内の写真を見ていただいても、図書館がさまざまな機会をつかまえ、コミュニティを構成する多様な人たち、すべての年齢層の人たちに積極的にかかわっていることが理解できる。

次頁の図2は、アメリカの公共図書館が児童生徒に必ず提供している‘Homework Help Service’、宿題支援サービスである。日本の公共図書館もこれをやっていれば、今日のように塾産業が正規の学校以上に繁盛することはなく、通信教育大手企業の個人情報の大量流出が問題となったベネッセ事件は起きなかったかもしれない。このウェブページから分かるように、アメリカの公共図書館が提供している宿題支援サービスは、オンラインとin person（対面）の両方で行われている。ウェブページからは、対面サービスには予約が必要のように見えるが、そうではない。放課後や週末には立ち寄

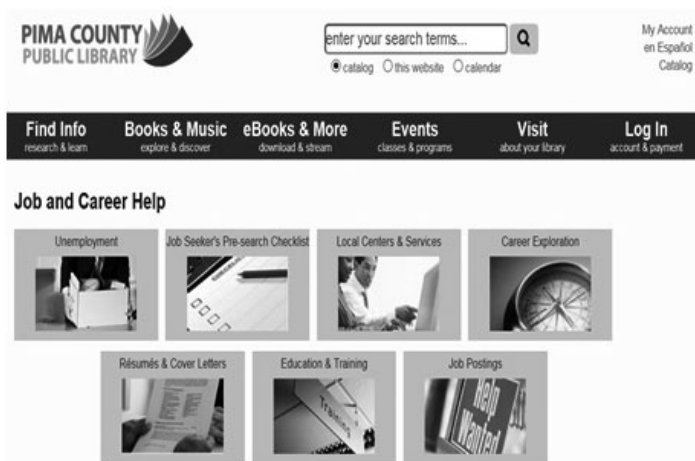


<http://www.library.pima.gov/homeworkhelp/>

図2 ピマ・カウンティ・パブリック・ライブラリーのホームページ2

り型 (drop-in Homework Help) の宿題支援サービスも実施されている。これは中央館のほか分館でも行われている。図書館は、電話でも、宿題支援サービスを提供している。この宿題支援サービスのチューターは、ボランティアによって担われており、アリゾナでは、英語だけではなく、多くの市民の日常言語がスペイン語であるところから、スペイン語でも行われている。

また、アメリカの公共図書館が力を入れて行っているのは、‘仕事探し’の支援である。図3のピマ・カウンティ・パブリック・ライブラリーのウェブページでは‘Job and Career Help’サービスとなっている。転職、キャリアアップも支援するという意味である。仕事探し専用のワークステーションをおき、産業別雑誌や専門機関総覧、就職ハンドブックなど関係資料コレクションが整備され、インストラクターなどの特別の職員が配置されている。このサービスのメニューには、①立ち寄り支援、②個人的な職業相談、および③就職対策クラブの3種がある。就職支援インストラクターの援助を受け、館内設置の端末を利用して、オンラインで就職情報を検索したり、履歴書の書き方を教わったり、関係する就職応募様式への記入を手伝ってもらったりする。コンピュータが使えないとまともな就職はできないので、館



<http://www.library.pima.gov/jobs-and-careers/>

図3 ピマ・カウンティ・パブリック・ライブラリーのホームページ3

内で実施している各種のコンピュータ講座の利用を勧めることも行われている。

アメリカの公共図書館では、無料貸本屋機能が大きな日本の公共図書館とは異なり、いろいろなサービスが提供されている。もうひとつだけ紹介しておこう。これについては新日本法規という法律系の出版社のPR誌、『法苑』173号にも書いておいた³⁾ので、詳しくはそれをみてほしい（インターネット上で無料でダウンロードできる。同出版社のホームページにアクセスし‘無料で購入’というボタンをおせばよい）。これもピマ・カウンティ・パブリック・ライブラリーだけでなく、広くアメリカの公共図書館で実施されているサービスである。アメリカの公共図書館では、さまざまな講座・クラスを開設しているが、ここでとりあげるのは‘フリー・シティズンシップ・クラス’である。アメリカは移民によって作られた国で、厳しくはなっているが、いまでも多くの移民を受け入れている。アリゾナには中南米、とくに隣国

3) 山本順一「フリー・シティズンシップ・クラス (Free Citizenship Class) について」『法苑』173号 (2014.09), 新日本法規, pp. 6-9.

のメキシコから多くの移民を受け入れている。この人たちの中でアメリカ社会に溶け込もうとする人たちにシティズンシップ、公民権、国籍を与える。ピマ・カウンティ・パブリック・ライブラリーは、地元のピマ・コミュニティ・カレッジの協力を得て、平日の夕方、日常の仕事が終わり、アメリカ国籍を取得しようとする人たちに対して、特訓講座を開いている。受講料は無料、資料費も無料である。合衆国市民権・移民業務局（U.S. Citizenship and Immigration Services: USCIS）の補助金も手当され、そこの教材を利用する場合もある。英語とアメリカの歴史、統治機構などについて学習する。帰化試験で面接があるが、そこで訊かれる3つの問題も移民業務局発行のテキスト100問のうちから出される。講師は、わたしが見聞した限りではこの帰化手続にうまくパスした人たちが務めていた。帰化して、アメリカ人になるとこんなにいいことがあるよと、教えるのである。日本は、法務省のホームページに一応の帰化のガイドライン⁴⁾は載せているが、100%裁量行為で恩恵的に帰化させてあげるといふ仕組みをとっている。法定要件さえ満たしていれば、がんばって一定の勉強をすれば、まず間違いなく晴れてアメリカ人になり、アメリカン・ドリーマーを目指せるといふ国の方がましだと思う。アリゾナでは、そのような多くの人たちは日常スペイン語を使っている。別に図書館で開かれている英語、英会話教室もそのために利用されている。

アメリカの公共図書館は、日本の公共図書館とは異なり、個人個人を助け、励まし、大いに世の中に役立っているということが理解できよう。

4 コミュニティに寄り添う図書館

日本の公共図書館の世界でも、遅ればせながら、‘ビジネス支援サービス’が唱えられ、関係者のなかには、‘ビジネス支援図書館推進協議会’なる団体⁵⁾をこしらえ頑張っている人たちもいる。このような人たちは、公共図書

4) <http://www.moj.go.jp/MINJI/minji78.html#a09>

5) <http://www.business-library.jp/>

館には「創業を促進する新しい可能性」があるという認識を持たれているように思われる。その可能性はゼロとは言わないが、わたしには「誇大妄想狂」のように感じられる。少し古いが、2007年に都市図書館評議会（Urban Libraries Council）によって公表された報告書に、『都市をもっと強力にする：地域の経済発展への公共図書館の貢献』（*Making Cities Stronger: Public Library Contributions to Local Economic Development*）⁶⁾というものがある。この報告書の前書きには、「アメリカでは、9,000を超える公共図書館が16,000の分館施設とインターネットを通じてサービスを提供している」と書かれている。地元で集められた資金で運営されている公共図書館がリテラシーと労働者の能力向上、そして中小企業を支援しているのは確かである。

この『都市をもっと強力にする』という報告書の内容につながるが、今年（2014年）1月に第一線を退いたジェミー・ラルー（Jamie LaRue）という有名な館長に率いられたコロラド州の中央部にある公共図書館システム、ダグラス・カウンティ・ライブラリーズ（Douglas County Libraries）が2006年に取組んだパーカー・ダウントウン開発委員会（Parker Downtown Development Council (DDC)）の事例が公共図書館による地域振興支援の成功例として語られることが多い。そこでは地権者や経営者たちが市議会議員を含む官民の関係者を呼んで、ダウントウンの商店街の再開発を検討することにした。この検討に公共図書館が加わった。地元の図書館（分館）の館長とライブラリアンが事務局長と内部の研究者として効果的な活躍をし、成果をあげた。メンバーに必要な情報と知識を提供し、議論に加わり、議事録を作成し、何度も会議を重ね、コミュニティの抱える課題に対して、その町に適合した、その町に相応しい、具体的で実施可能な施策に煮詰めることができたのである。わたしも一時期務めていたが、日本のシンクタンクのようなクライアントの代書屋ではなく、ほんとうにノンプロフィットの有効なシン

6) <http://community-wealth.org/content/making-cities-stronger-public-library-contributions-local-economic-development>

クタンクとして機能できるのは、専門的なりサーチ能力を持つライブラリアンを抱えた地元の公共図書館しかないように思える⁷⁾。指定管理者のようなハンチュクなどところでは、シンクタンク機能の発揮は不可能である。そのシンクタンク業務の代金は無料である。

ビジネス支援サービスを唱える日本の図書館関係者がパン屋とかお好み焼き屋とかラーメン屋、インターネットショップといったちまちました、どこにでもある起業、創業を支援することにも意義はあるが、公共図書館はコミュニティ総体に仕えるべきものだと、わたしは思う。コミュニティ全体の底上げを図る事業こそ、全身全霊を持って図書館関係者が支援すべきだと思う。コミュニティの仲間に加わり、会議に参加し、ときには話題提供をし、会話を活気あるものとし、かけがえのない存在となる。情報を共有し、知識をともに創る。分かりやすくして簡潔な資料を作成し、提供するライブラリアン。こういう図書館を飛び出し、コミュニティに寄り添うライブラリアンを‘エンベデッド・ライブラリアン’ (embedded librarians)⁸⁾という。コミュニティにしっかり組み込まれたライブラリアンである。

5 顔が見える図書館員

メキシコ国境まで車で1時間ちょっと、約70マイル、100キロくらいのところにピマ・カウンティ・パブリック・ライブラリー (Pima County Public Library) の中央館がある。図4は、そこの三輪自転車を利用した‘ブックバイク’をあらわしている (いつも中央館の入り口を入ったところ、ロビーに置かれている)。このブックバイクは、市民から寄贈された本を何

7) 東洋一の公共図書館とされる上海図書館には、これまでの経緯も関係しているが、上海科学技術情報研究所を併設しており、中国進出をもくろむ日本企業のマーケティング調査などの委託を受けていると、関係者から聞かされたことがある。

cf. <http://www.library.sh.cn/Web/home.html>

8) 英語の文献では‘エンベデッド・ライブラリアン’をテーマとしたものは少なくない。日本語でこの概念を要領よく解説したものに、鎌田均「動向レビュー：「エンベデッド・ライブラリアン」：図書館サービスモデルの米国における動向」『カレントアウェアネス』no. 309 (2011. 9. 20) がある。<http://current.ndl.go.jp/ca1751>



図4 ピマ・カウンティ・パブリック・ライブラリーのホームページ4

十冊か載せて街中に出てゆき、無償で市民に本を配る。これは、そのサービスを伝えるフェイスブックのページである。アメリカの公共図書館は、フェイスブックに限らず、ソーシャル・メディアを用いて積極的に情報発信をしている。この写真の上に 'More Bookbike Love with Toby and Karen!' (もっとブックバイクをすきになってね。トビーとカレンもよろしくね!) とある。トビーさんは、わたしもお会いしたが、話し上手の面白い人で、ゲイやレズの人たちの会合にもこのブックバイクでサービスに出かけるそうである。さきに図書館員はコミュニティにしっかり組込まれたライブラリアン、エンベデッド・ライブラリアンたれと記した。トビーさんのように市民の誰からも愛され、親しまれ、顔の見えるライブラリアンになることが必要である。日本の図書館員が、予算も人も十分に与えられず、図書館という組織に埋没し、先例拘束でがんじがらめとなり、既存サービスの改善には取り組んでも、革新のない図書館に隠れ、個性を発揮せず、名もなく、貧しい図書館員にとどまる限り、この国の図書館には明日はないと確信している。

補論： 図書館の民営化について

アメリカ図書館協会のホームページに ‘アメリカの図書館に関する引用の価値ある事実’ (Quotable Facts about America’s Libraries) と題するウェブページ⁹⁾がある。以下に訳出したものを掲げておく。

アメリカの図書館に関する引用の価値ある事実

■ 知ってる？

- アメリカの成人の58%が公共図書館のライブラリーカードを持っている。
- アメリカ人が学校図書館、公共図書館、大学図書館に行く回数は、映画を見に行く回数の3倍よりも多い。
- アメリカの公共図書館、大学図書館に勤めるレファレンス・ライブラリアンは、毎週、660万近くの質問に答えている。質問者に一列に並んでもらうと、メリーランド州オーシャンシティからアラスカ州ジュノーにまで連なる。
- アメリカ図書館協会が2012年に行った世論調査のひとつによれば、回答者の94%は、公共図書館が無償で資料と資源を提供しているので、すべての人びとに成功のチャンスを与え得るという点で、公共図書館が重要な役割を演じていることを認めている。

■ 技術進歩の動向

- 2010年現在、(アメリカの)大学図書館はほぼ1億5,870万の電子書籍を保有し、公共図書館は1,850万以上の電子書籍を保有していた。

9) <http://www.ala.org/offices/ola/quotablefacts/quotablefacts>

- 2011年に実施されたピュー研究所¹⁰⁾の調査によれば、(アメリカの公共図書館の)ライブラリーカードの保有者の約24%が前年に電子書籍を読んでいる。そのうちで、57%が電子書籍の貸出を選び、約33%がそれらの購入を選んでる。
- 2011-2012年のアメリカ図書館協会の‘図書館がコミュニティをつなぐ’調査では、回答を寄せた図書館の76.3%が電子書籍を提供していると報告し、2011-2012年調査から9%増加した。

■ 公共図書館

- アメリカには、マクドナルドよりも多くの公共図書館が存在する。分館も含めた合計では、16,766館に達する。
- アメリカ人は、公共図書館で過ごす時間のほぼ3倍の時間、キャンディをなめている。
- アメリカ人は、平均して、1年間に8冊以上の本を公共図書館から借り出している。彼らは公共図書館利用のために1年間に35.81ドルを使っている。それはおおむねハードカバー1冊の購入費用にあたる。
- いまや公共図書館施設の約89%が無線のインターネットへのアクセスを提供している。
- 公共図書館の92%以上が仕事を探している人たちに対してサービスを提供している。

■ 大学図書館

10) ピュー研究所 (Pew Research Center) はアメリカ合衆国のワシントンD.C.を拠点としてアメリカ合衆国や世界における人々の問題意識や意見、傾向に関する情報を調査するシンクタンクである。From Wiki

- 大学図書館は、毎年、4,400万人以上の学生たちに役立つ情報を提供している。それは、大学対抗のバスケットボールの試合を観戦する人たちの数をほぼ1,200万人上回っている。
- 大学図書館は、高等教育に支払われる経費1ドルずつにつき、わずか3セントにも達しないお金の受け取っているに過ぎない。
- 1990年以降雑誌『People』¹¹⁾の費用が大学図書館の学術雑誌と同じくらいの速さで値上がりしていたとすれば、その1年間の購読費用は約182ドルに達したことになる。
- アメリカにおける2010年の2年制のカレッジと4年制の大学においては、それぞれの教員がひとりあたり14人の学生を担当していたのと比較すれば、そこに働くすべてのライブラリアンはひとりあたり584人の登録学生を受け持っていたことになる。

✚ 学校図書館

- 研究調査の示すところによれば、もっとも成績が優秀な児童生徒たちは、職員に恵まれ、資金も豊富な図書室を備えた学校に通っていることが分かる。
- (アメリカの)学校図書館において、保健・医学に関する文献の発行年を平均すると1996年になる。これらの資料を利用する児童生徒は、クローン技術で生まれた羊のドリー(1997年)についても、またイギリスが香港の主権を中国に引き渡した(1997年)ことを学び取ることはない。
- (アメリカの)児童生徒は1学年の間に13億回学校図書館

11) 『ピープル』(英語: People, 正式名称: People Weekly)は、1974年に創刊されたアメリカの娯楽雑誌。主にセレブリティなどの報道を取り扱う。タイム・ワーナー傘下のタイム社(Time Inc.)より発行されている。2006年現在、発行部数は375万部。From Wiki

に行く。これは2011年に映画館に行った回数と同じで、国立公園に出かけた回数の3倍にあたる。

- アメリカ人は、自分の子どもたちのために学校図書館の資料購入に支払う金額（10億ドル）の18倍（186億ドル）以上のお金を家庭用ビデオゲーム購入のために費やしている。
- （アメリカの）学校図書館は、その図書館の情報メディアに関して、児童生徒ひとりあたり平均12.06ドルを支出している。これは、フィクションわずか1冊の購入経費（17.63ドル）の約3分の2、またはノンフィクション1冊の購入経費（27.04ドル）の約3分の1に過ぎない。

・アメリカの図書館の民営化の真相

うへの図書館統計の解説にもある通り、アメリカには、ハンバーガーのファーストフードショップであるマクドナルドよりも多くの公共図書館が存在する。分館も含めた合計では、16,766館に達する。また、‘コミュニティに寄り添う図書館’のところで参照した『都市をもっと強力にする：地域の経済発展への公共図書館の貢献』（*Making Cities Stronger: Public Library Contributions to Local Economic Development*）の‘まえがき’にアメリカには9,000を超える公共図書館システムが存在することが指摘されていた。ひるがえって、2014年9月、アリゾナから帰国して『図書館の民営化』というタイトルをもつ翻訳書¹²⁾を手にした。その7ページに、2011年現在、アメリカの5つの州の17の公共図書館システムが民間企業（LSSI）と契約し、（公設）民営化されていたこと（おおむね日本の公立図書館の世界で増加傾向にある‘指定管理者’制度に該当する）をとらまえ、5つの事例のケーススタディ（2・民間経営、1・公的経営に復帰、2・民営化検討、断念）

12) ジェーン・ジェラードほか著/川崎良孝訳『図書館と民営化』京都図書館情報学研究会、2013（原書*Privatizing Libraries*は、2012年にアメリカ図書館協会から刊行されている）。

を紹介している。1997年にカリフォルニア州のリバーサイド・カウンティ・ライブラリー・システムがアメリカで最初に民営化に踏み切り、今日に至っている事実は有名であるが、その後、日本の現状のように急激に民営化（指定管理者）が増大したわけではない。民営化を実施している17の公共図書館システムは概して従来まともな図書館運営ができていなかった図書館で、アメリカの公共図書館システム全体の0.2パーセントにも満たない。ここで取り上げた訳書は、アメリカ図書館協会が公共図書館の民営化の兆候を懸念し、予防的に警鐘をならしたものに過ぎない。アリゾナ滞在中、アメリカの公共図書館の世界に民営化が進行しているとのうわさは露ほども聞いたことはない。間違っても、日本の図書館関係者は、この訳書を通じて誤った認識をもたれないようにしてほしい。

財政環境に恵まれないのは世界の図書館に共通することであるが、いとも簡単に民間企業に公共図書館運営を丸投げするのは日本をおいてほかにない。

・ツタヤ図書館について（この部分は、樋渡啓祐『沸騰！図書館』（角川oneテーマ21）、2014を参照しつつ叙述した。）

日本の図書館関係者や心強い図書館サポーターの人たちのなかには、武雄市ツタヤ図書館を快く思わず、悪しざまにけなす人たちがいるようである。しかし、たとえ欠陥はあるとしても、図書館がないよりあるほうが絶対に良い。財政力が不十分ななかで、国内外から図書の寄贈を受けて開館にこぎつけた福島県矢祭町の‘もったいない図書館’にも快哉を送るべきである。頻繁に休館しながらサービス機関と知っているどうしようもない多くの日本の公共図書館と比較して、武雄市ツタヤ図書館が1年365日年中無休で、開館時間が朝9時から午後9時までの12時間、しかも従前と比較して運営費が安あがりということは評価すべきである。世界最大のニューヨーク公共図書館は年間1,800万人以上の来館者を数える¹³⁾が、名門ボストン公共図書館の

13) <http://www.nypl.org/help/about-nypl>

年間 370 万人の来館者¹⁴⁾と比較しても、人口 5 万人程度の武雄市ツタヤ図書館の来館者が 92 万人という驚異的事実はすごく立派であるし、称賛に値する。リニューアル開館に向けて周到な演出をし、アメリカ議会図書館や上記のニューヨーク、ボストンほどではないにしても、市内随一の観光資源に仕立て上げた力量は見上げたものである。

BDS（図書紛失防止装置）と連動させた自動貸出機の導入等や省力化も、間違いなく正しい。利用者にサービスを提供する優しく親切であるべきライブラリアンの‘顔が見える図書館’（p. 217）を目指すという方向も見上げたものである。

しかし、手放して礼賛すべきだとは思わない。「武雄市図書館・歴史資料館の管理運営に関する協定書」のCCC（カルチャー・コンビニエンス・クラブ＝ツタヤ）が行う管理業務を定めた 2 条 2 項をうけた「武雄市図書館・歴史資料館管理業務仕様書」¹⁵⁾に、‘2 施設の運営理念等’が記され、そこに次のような定めが置かれている。

(2) 図書館の役割・設置目的

図書館は、市民の図書資料に対する要求に応え、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存を行うとともに、関連する事業を実施し、市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とした生涯学習施設として効率的な運営を行います。

なお、図書館の運営基本方針は次のとおりです。

- ①レファレンス・サービス（相談業務）の充実等、図書館の機能充実に努めます。
- ②図書館資料のリクエスト・予約サービスの充実を図ります。
- ③幼児・児童に対するサービスを重視します。
- ④学校図書（館）及び公民館図書室との連携と図書の充実を図り、

14) <http://www.bpl.org/general/about/stats.htm>

15) <https://www.nantoka.com/>

図書館資料の有効活用に努めます。

⑤図書館サービスの周知徹底と利用の啓発を図ります。

このような規定を表層的に理解する限り、武雄市ツタヤ図書館には問題がなさそうに見える。しかし、実態はそうではなかろう。「新刊を読みたければ買えばいい」(p. 25) と言い放ち、‘ベストセラーは著作者の生活を配慮して購入しろ’とのたまう御仁の愛してやまない図書館である。ベストセラーは館内設置のツタヤ書店での購入を強いるであろうし、複本の購入には消極的にならざるを得ないであろう。(ツタヤ図書館内においては、貸す本と売る本がタイトル毎に識別され、中国の一部の公共図書館にみられる(利用者が)借りてもいいよ、買ってでもいいよということにはならないと思われる。)所蔵雑誌のタイトル数は圧倒的に少なく、ツタヤ書店で売られている最新号の雑誌は無料の閲覧(スタバでの座っての立ち読み)は許容するが、おそらくメモったりデジカメで撮影しようとするれば複製権侵害と言いつのもであろうし、著作権法31条1項1号括弧書きを援用し、必要な情報が記載されている最新刊の雑誌については購入を迫ることにせざるを得ないであろう。

また、図書館の資料利用と地元書店の図書販売とが現象面で競合する可能性を指摘し、「税金を使って民業を圧迫するのはおかしい」(p. 25)といわれる。図書館の本質をまったく理解されていない。公共図書館の大切な無料貸本屋業務は、一見、書店販売と競合するし、夏休みの子供向けのアニメ鑑賞会は地元映画館と競合するかのような外観をもつ。(アメリカでは普通に行われている宿題支援は塾産業と競合する?)市民によく利用される公共図書館は、(表面的には)民業を圧迫せざるを得ないところなのである。自助努力を惜しまない、老若男女の好奇心旺盛な無産市民に学ぶ喜びを教え、階層上昇を支援する公共図書館の目的が関係する民間企業との競合を正統なものとするのである。

わたしは、アメリカの公共図書館のように、コミュニティとそれを構成す

る市民個人に寄り添い、宿題支援、就職支援、ビジネス支援なども積極的にを行い、所蔵する資料を活用し説得力のある地元にもふさわしいシンクタンク機能を発揮し、地域振興に資する‘コミュニティ・レファレンス’を実施できる公共図書館を目指すべきだと思う。そうすると、伝統的な紙媒体資料に加えて、データベース等の情報資料も整備しなければならない。クイック・レファレンスを越えたサービスを行うには、それ相応の待遇をせざるを得ない専門の人材も必要で、公共図書館には長期的視野の投資と人の育成が求められる。日本の（中小の）公共図書館のようなはした金では、まっとうな公共図書館づくりはできないのである。‘リベラルもどき’のわたしは、武雄市ツタヤ図書館のような顧客誘引力があり、見栄えの良いチマチマした図書館に対して手をたたいて‘素晴らしい’とは決していわない。また、投資効果に乏しい公共事業に信じられないくらい積極的に財政出動し、国民から搾り取った血税をバラまく‘大きな政府’の存在を肯定はしない。事務事業の優先順位（プライオリティ）を抜本的に見直し、国の防衛力整備以上に無駄な、選挙対策やしがらみで現在ドブに捨てられている公的資金を図書館に回すべきであると思うし、アドボカシーを強力に展開し、ほおっておけば課税され、政府や地方公共団体にいように使われてしまうお金を図書館への寄付に誘導すべきものように思う。

旧態依然の日本の公共図書館に反省を迫り、ひとつのサービスモデルを示した武雄市ツタヤ図書館は、紛れもなく日本型の‘コミュニティ・アンカー’（地域のコミュニティの核）となっている。アメリカの民営化について書かれた本のなかでは、指定管理者のような民間企業への丸投げには、説明責任（アカウントビリティ）や運営過程の透明性の点で問題があるとしている。書籍販売を本来的業務とするツタヤ書店に対して、図書館業務における資料選択（選書）から受入れまでやらせるということは、まさしく‘利益相反’で、そのことは丸善など他の業者の場合も同様である。また、常に説明責任を問いうる地方公共団体ないしはニューヨーク公共図書館のような公益法人の直営の場合とは異なり、公設民営の武雄市ツタヤ図書館の運営に対

しては設置自治体に対して、情報公開条例にもとづき関係情報の開示を迫ることになるが、公共図書館運営に関する民間企業のノウハウや（企業の）プライバシー（？）は非開示とされてしまう余地が大きい。ちなみに、武雄市ツタヤ図書館は立ち上がりに多少の赤字が出たとされるが、これだけの宣伝効果があり‘ブランド力’を高めたことはCCCにとっては企業として大きなプラスとなったはずである。

わたし個人としては、武雄市ツタヤ図書館が‘今後も進化し続ける’ことを大いに期待したい。

（やまもと・じゅんいち／経営学部教授／2014年10月13日受理）

On an Image of the American Public Library

YAMAMOTO Jun-ichi

American public libraries provide various kinds of public services, while Japanese ones mainly lend popular fictions and introductory, enlightening books. The Declaration for the Right to Libraries, which was made by American Library Association leaded by its president, Barbara Stripling, says 'Libraries change lives.' Public libraries in the United States have walked close together with their local communities, individuals, groups, and organizations. For examples, they have given homework helps, job helps, citizenship classes, community references. There are lots of differences between U. S. public libraries and Japanese ones. Among them, U. S. public librarians have their own faces individually from users' view, but Japanese library staffs are covered under their organization, and have no names and no faces from users' view. In addition, many public libraries in Japanese society are managed by private companies, and the number has grown big recently. Takeo City Library in Saga prefecture is so famous for the fact that that is managed by a personal data using company, CCC, and has a Starbucks coffee shop at the center of its floor. Lots of researchers of librarianship across the world surely feel a sense of discomfort, when watching so-called Japanese public libraries.